

11月18日 第9日目

気が付けばこの旅も半分以上のスケジュールを消化したことになる。

今日から本格的なフィールドワークが始まる。8時過ぎにドミトリーを出発し、待ち合わせの駅へ。そこから3つのグループに分かれ、ツアーリーダーのガイドで、それぞれの計画に沿って台北市内各地で調査を行う。

本日は報告者が同行した阿部・五十嵐・内山・吉田班の一日を紹介する。

このグループのテーマはコミュニティ形成である。一方の班は伝統的な産業や芸能を活用したコミュニティ形成の可能性について、もう一方の班は希薄といわれる台湾の地縁的コミュニティへの帰属意識の実態について聞き取り調査を行った。

両班ともに調査を希望する内容をスケッチブックに中国語や英語で記した上で、該当する答えの欄にシールを貼ってもらうという形を取る。

路上で見ず知らずの人に声をかけて何かを調査するというようなことは、大人ですら経験したことのある人の方が少ないであろう。出発前は異国の地での街頭調査が本当に遂行できるのか随分と気を揉んだが、意外なほどスムーズに入っていくことができた。

聞き取りを行う場所の選定も適切であった。偶然ではあるが、全てのグループが最初に選んだのは大安森林公園という台北を代表する公園の一つ。自然豊か（あちこちを野生のリスが走り回っている）であり、かつ子供用の遊具も充実しているということで、日曜ともなれば多くの家族連れや学生の団体、老夫婦まで、あらゆる年齢層の人々が集う。

ツアーリーダーから「座っている（時間がありそうな）人たちをターゲットにせよ」というヒントを得て、実行した結果それが大当たり。ほとんど断られることなく、一時間程度の中に20人近くの方々から回答をいただくことができた。その後台湾博物館で台湾の自然史・歴史（当該博物館の前身の設立者の一人ということで本県出身の後藤新平の像も飾られていた）双方を学んだ上で、剥皮寮歴史街区という清朝の面影を残す町並みが残る地区へ。そこでひょんなことから台湾の人々に本校の第10応援歌を披露することに。これがその後の展開を大きく左右するものになるとは誰も予想だにできなかった。

周辺で昼食を摂った後に、台湾最大の繁華街である西門へ。若者を中心にあらゆる世代の人々がごった返すこの地区でも聞き取りを行う予定だったが、選挙を一週間後に控えた日曜日ということで、そこかしこでイベントが行われており、とてもじゃないけれど行きかう人々を呼び止められるような雰囲気ではない。ここでの調査を諦めかけたその時、聞き取りに必要な2冊のスケッチブックのうち1冊が無くなっていることが判明。この広大な都市の中で見つけるのは不可能だと、絶望的な気分になった。しかしよくよく考えてみると手放すタイミングは一つだけ。第10応援歌を披露したときである。

場所がほぼ特定されたことで、まずはプランに沿って最後の目的地である「中正紀念堂」に向かい、全行程が終了した後スケッチブックの回収へ向かうことに。中正紀念堂はいつてしまえば蒋介石を礼賛する、イデオロギー的要素の強い場所であるが、彼なしでは国民党も現在の台湾も恐らくは存在しなかったのも事実。それだけに国家が総力を挙げてその顕彰を行っている場所である。台湾人の気概が具現化されているような、この国を理解する上では訪問必須のスポットなのであろう。その見学を終え、一度すべての班がスタート地点に集合し、本日のプログラムが終了となった後、この班はいそいそとスケッチブックを忘れたと思しき場所へ。到着したのは閉館時間間際のいざシャッターを下ろさんとするまさにその時であった。幸いにも無事スケッチブックを回収。安堵の涙を流す者も。

どのグループも多かれ少なかれちょっとしたトラブルに見舞われる、あるいは思ったように調査を遂行できなかった場面もあったはずである。しかし、それすらも糧にして、明日はよりよいフィールドワークの1日を過ごせることができると確信している。

海外における初の聞き取り調査  
丁寧に台湾の事情を教えて下さる方も



こなれてくるとどんどん行きます  
しまいにはちょっとした人だかりに



中正（蒋介石）紀念堂にて  
圧倒的なスケールです



スケッチブックを無事発見  
これもやがてはいい思い出に

